

『極悪人でも救われる』

'22/04/17(イースター)

聖書箇所: ルカの福音書 23 章 39-43 節 (新約 p.168)

今日は1年に1度、イエス様の十字架と復活を覚える「イースター」、つまり、「復活祭」であります。そこで今日は、この聖書のみことばが教えてくれる救いのメッセージについて、“できるだけ、シンプルにお話ししたい”と思います。そのために私が選ばせていただきましたのは、ルカ伝 23 章に記されてある、あの強盗が救われたシーンであります。

命題: どうしたら、私たちは救われることができるのか?

今日は、そのみことばを通して、私たち人間は、一体どうすれば救われることができるのか? イエス様がおっしゃられたパラダイスへ行くことができるのか? ということについて、聖書のみことばを観察していきたいと思えます。そうすることによって、願わくは、今日このメッセージを聴いてくださった皆さんが1人も残らず、救いの恵みに預かってほしいですし、少なくとも、この聖書が教える救いのメッセージというものに関して、正しい理解を持ってほしいと思えます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるルカ伝 23:39-43 をお開きください。そこには、このように記されてあります。

39 十字架にかけられていた犯罪人のひとりにはイエスが悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」と言った。

40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。」

41 われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」

42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」

43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

I・自分の罪を認める!

まず、今読んだみことばの最後 43 節をご覧くださいますと、ここでイエス様は、ご自分と一緒に十字架に磔にされた犯罪人の片方に対して、『あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます』ということに約束して下さっています…。実は、この『パラダイス』(παράδεισος)という言葉…、これこそ、私たちが「天国」という風に信じている、亡くなった者たちが行くことのできる祝福の場所であります。

つまり、イエス・キリストは、ここで、「あなたはもうすぐ…、今日の内に、天国に行くことができますよ!」ということをお話しになっておられるのです。でも一体、どうしてなのでしょう? …と言いますのは、この人物が大変な犯罪人であったからです。実は、マルコ伝 15 章を見てみると、その当時、イエス様と一緒に十字架に磔にされたのは、2人の強盗であったということが記されてあります。…つまり、この犯罪人と言いますのは強盗であったのです!

しかし、そのような大きな事件を起こしたはずの…、しかも、死刑にまでなるような強盗が、一体どうして天国に行けると、イエス様は約束されたのでしょうか? そのことを、今からしばらく、神様が私たちに与えてくださった聖書のみことばを通して、確認をしていきたいと思うわけです。

● 他人を責めたり、言い訳したりしなかった!

私たちが救われるために必要なこと…、その第1のステップは、自分自身の罪を“認める”! ということで

す。…多分、皆さんも、このみことばに記されてある状況を分かってくさると思います。彼ら強盗たちは、自分の手と足に釘を打たれ、その激しい痛みの中にありました。そういった中で、片方の強盗は、イエス様に対して、こう言うのです。39 節、お前は、『…キリストではないか。自分と俺たちを救(つてみる!)』って…。つまり、イエス様のことをのしりつつ、自分が少しでもこの苦しみから逃れたい! ということをお願いわけです。

まず、ここで確認したいことは、この時、救われなかった方の強盗は、ここで、イエス様に対して、「お前はキリストではないか!」という言葉を使っています。聖書のことをあまりご存知ない方は、この、『キリスト』という言葉や、苗字が何かだと思われるかも知れませんが、これは苗字ではなく、職務を表わしています。言わば、「称号」です。つまり、この人物こそは、はるか何百年も前から…、いやもっと前から預言されていた、約束の救い主であり…、私たち人間のために天国への道を備え、救いを与えてくださるお方である! ということなのです! この当時、このイスラエル地方の人々は、神が預言してくださっていた…、「約束の救い主=キリスト」を心待ちにしていました。しかし、多くの者たちは、それが、今、自分の目の前にいる、このイエス様であるとは信じることができませんでした。…それは、この強盗も同じでした。だから、彼は、「もしも、お前が本当にキリスト…、つまり、約束の救い主なら、俺のことを救ってみろ!」と言うわけです。

実際のところはどうなのか知りませんが…、普通、殺される程の犯罪人が、大勢の前で辱められながら殺されていくような場合、憎まれ口をたたくというようなことを、時々耳にします。実際、このみことばに書かれてある強盗の片方は、この時まさに、一緒に十字架に磔にされているイエス様に対して、そのような「憎まれ口」をたたいています。

私たちがよくしてしまいがちなのは、人から何か自分の問題点を注意されたり、悪い点を指摘されたりすると、つい、言い訳をしてしまったり…、口答えをしてしまったりする場合があります。でも、そういった行動で何が分かるのかと言うと…、「ああ、この人は、本当に、自分のしたことの意味や重大さが分かっていない…」、言い換えれば、「本当に、心から反省しているのではない…」ということが分かるのではないのでしょうか?

だって、本当に反省している場合、その人は言い訳もしないでしょうし…、他の人のことを責めたりもしないからです。「この人も!」とか、「あの人のせいだ!」とか…、そういった言葉が出てくると言うのは、その人が本当には反省していない…、自分の犯した過ちについて正しい理解できていない! ということの表われだと…、私たちは判断するのではないのでしょうか?

この時、片方の強盗は、イエス様に対して憎まれ口をたたくということによって…、残念ながら、この強盗は、十分には、自分の犯した過ちを反省していない! ということが分かります。しかし、もう一方の…、「救われた方の強盗」はそうではありませんでした。彼は、イエス様に憎まれ口をたたき強盗をたしなめようとしていたのです! 彼は、自分を十字架に付けた者たちや、そこに大勢いたはずの民衆に対しても、憎まれ口をたたいたり…、あるいは、言い返したりしようとはしませんでした。そのことによって、彼が自分の犯した罪を十分に認めている! ということが分かるのではないのでしょうか?

● 自分の受けるべき報いを認めた!

救われた方の強盗が、自分の罪を認めている…。その、もう1つの証拠は、「彼は、自分の受けるべき報いを認めている!」という点です。彼の言った言葉の中に、このようなくだりがありました…。41 節、『われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。…』。彼は、自分がこのような…、つまり、死刑に値するような罰を受けて当然だということを認めているのです。だから、どんなに激しい痛みがあろうと…、また、どんなにツラかろうと…、自分に苦しみを与える人を責めようとはしないのです。だって、その原因は他の誰でもない自分であることを認め、自分が悪いということを十分、分かっているからです。

実は、私たちクリスチャンも、必ず、こういった思いを経験します。…と言いますのも、イエス様は、ある時、「パリサイ人と取税人の祈り」に関する例え話を通して、こんな風に教えてくださったからです。ルカ 18:9-14、『9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりパリサイ人で、もうひとり取税人であった。11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』14 あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。』

⇒イエス様は、この例えを通して、何を伝えたかったのでしょうか？…それは、「人は行ないでは救われ得ない！」ということです。…と言いますのも、この当時、パリサイ人たちは、律法を守るという行ないによって、自分たちは救われる！という大変な思い違いをしておりましたからです。だから、この例えでも、そのパリサイ人は、自分の行ないを神様に誇るわけですが、「私は、他の人々のゆるする者や不正を働く者、また、姦淫するような者でないこと、まして、この取税人のようではありません。私は週に2度も断食をしているし、自分の受ける物は皆、その1/10を捧げています」って…。

しかし、神様のみこころはそうではありません。私たち人間は皆、律法の行ないによっては救われ得ないのです！ガラテヤ 2:16 にこうある通りです。『しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもないからです。』⇒皆さん、聞いてくださったでしょうか？私たちが人間は誰も、行ないによっては義と認められない！つまり、救われ得ないのです！

大変申し訳ありませんが、聖書のみことばは、ローマ書 3 章で、こう警告してくれています。『義人はいない。ひとりもない。』(ローマ 3:10b) って…。それに続いて…、ローマ 3:13-18、『13 「彼らのどは、開いた墓であり、彼らはその舌で欺く。」「彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり、」14 「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。」15 「彼らの足は血を流すのに速く、16 彼らの道には破壊と悲惨がある。17 また、彼らは平和の道を知らない。」18 「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。』」って…。

⇒どうぞ、今のこの世界を見てください！どれほど醜い事件や身勝手なニュースが流れているでしょう？恐ろしい…、身の毛もよだつような犯罪や、冷たくて残酷なニュースが流れているでしょう？…確かに、ここにいらっしゃる皆さんは、そのような犯罪者ではありません。しかし、完全に聖くて…、聖なる神様が私たちの心の中を御覧になった時、「すべての人間は、醜い罪を持って、汚れてしまっている！」と教えるのです。クリスチャンとは、自分の罪…、つまり、自分の心の中にある、どうしようもない醜い思いや、自分の愚かさがあることを、神の前に認め…、本来ならば、自分も神様から、「罪ある者」とされ、裁かれるべき存在であると、思い知らされた者のことなのです。今日のみことばに出てくる、あの救われた方の強盗は、そういったことをはっきりと認めたのです…。だから、彼は救われることができたのです！

II・イエス・キリストを信じる！

私たちが救われるために必要な、もう一つのこと…。それは、イエス・キリストを“信じる”ことです…。この、救われた方の強盗…、彼は、一体いつ、そのことを信じたのでしょうか？⇒実は、そのことのヒントは、聖書の中に記されています。

●片方の犯罪人を変えたもの？

どうぞ、皆さん、できましたら、マタイ 27:38-44 をご覧くださいます？そこをご覧くださいますと、こう記されてあります。『38 そのとき、イエスといっしょに、ふたりの強盗が、ひとりは右に、ひとりは左に、十字架につけられた。39 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって、40 言った。「神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。もし、神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降りて来い。」41 同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけて言った。42 「彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから。43 彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りなら、いま救っていただくがいい。『わたしは神の子だ』と言っているのだから。」44 イエスといっしょに十字架につけられた強盗どもも、同じようにイエスをののしった。』

⇒皆さん、気付いてくださいました？このみことばは、イエス様と一緒につけられた『強盗ども(複数形＝両方の強盗たち)』も、この時、イエス様のことをののしった！ということが記されていますでしょ？…つまり、恐らく、救われた方の強盗も、十字架に磔にされた直後には、イエス様のことを信じてはおらず、イエス様のことをののしっていたのです。…しかし、そんな強盗が、何と、十字架の上で変えられたのです！

例えば、彼は誰よりも1番近くで、十字架にかけられた…、あのイエス様のことを見ておりました。実際、彼は、十字架上で祈られた、イエス様の祈りを耳にしていました。今日のみことばの少し前、ルカ 23:34b で、イエス様は、こう祈っておられます。『父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』⇒ねえ皆さん！一体誰が、自分が磔にされるような時、その自分のことを十字架へと、追いやった者たちのために、「父よ(＝神よ)、彼らをお赦しください！」なんて祈ります？

まして…、このイエス様は何の罪も無いのに、自分こそが約束の救い主(＝キリスト)としたことや、祭司長たちのねたみや陰謀によって、十字架にかけられたわけでしょう？ひょっとしたら、この強盗は、イエスが裁判で、当時の総督ピラトが、イエス様に対して言った、「この者には何の罪も見当たらない！」という宣言を聞いていたのかも知れませんが…なのに、イエス様は何もおっしゃられずに、自ら進んで、あの忌まわしい十字架へと向かっていかれたのです。何の罪も無いのに、十字架に磔にされようとしていた人物…。その者が、自分を十字架につけようとしている、群衆のために祈っている…。一体、どこにそんな人物がいるでしょう！「明らかに、このイエスという人物は、ただの人間ではない…」。そんな風に、この強盗も思ったのではないのでしょうか…。

●神様として…

そうして、もっと決定的な事実があります。…イエス様のことをののしり、憎まれ口をたたいた強盗に対して、この救われた方の強盗は、40 節、『おまえは神をも恐れぬのか！』と言って、このイエス・キリストこそが、真の神様である！ということを確認するような発言をしています。それ以外でも、42 節の、『イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。』という言葉だってそうです。『あなたの御国の位にお着きになるとき…』というのは、直訳すると、「あなたの王国に行く時…」となっており、救われた方の強盗は、このイエス様こそが、真の王であられ…、主権者なる神であることを認めているのです！これこそ、まさしく、聖書が教えてくれている神様を信じる信仰じゃありません？

もしも、この強盗がもっと早くに、そのような信仰を持っていたら、死刑になるような重い犯罪を犯すことはなかったでしょう。しかし、少なくとも、この強盗は、この時点では、目の前にいる、このイエス様こそ、真の神であられ…、すべてのものの創造主であられる！ということを確認しているのです。

●主人として…

そうして、イエス様は、そんな重罪を犯した強盗にも希望を与えられました…。今、まさに十字架に磔にされている…。苦しくて、苦しくてたまらない…。しかも、自分はこのような罰を受けて当然であるということも、この強盗は分かっている。そんな強盗に対して、「大丈夫だ！あなたは、この罰(＝苦しみ)の後、天国に迎え入れられる！」と、イエス様は約束してくださったのです！

みことばが教えてくれている、クリスチャンとは、このようにイエス様から希望を与えられた者です。確かに、本来ならば…。私たちは、自分の犯した罪ゆえに、永遠の苦しみを受けるべきであるということ信じ…。受け入れた者です。しかし、神様からのメッセージは、そこで終わりません！

実は、すべての人に対して、神は、この希望を与えようとしてくださっています！ここにいらっしゃる皆さんにも、「罪の赦し＝救い」というプレゼントが、神様によって用意されています！しかし、問題は、あなたがそれを戴こうとするかどうかです！あの時、イエス様と一緒に十字架に磔にされた強盗の片方は、イエス様からのプレゼントである救いを…。罪の赦しを受けることができました。この、救われた方の強盗は、イエス様をなじる強盗に対して、40-41 節で、『おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。』と言って、イエス様のことを弁護しています。それは、どうしてだか、お分かりになってくださいますか？⇒実は、イエス様のことを知れば知るほど…。このお方を愛し、このお方に仕えていこうとする思いが増していくのです。だって、このイエス様というお方は、私たちが救うために、大変な犠牲を払ってくださったようなお方だから、です！

もしも、今日このメッセージを聴いてくださっている皆さんも、この救いを戴き…。このイエス・キリストというお方を、神様としてお信じになってくださるなら、このお方は、皆さんにとって、唯一の神であり、救い主であると同時に…。あなたが仕えるべきご主人様でもあるはず。何故なら…。「このお方に従っていきたい！このお方に喜ばれることをしていきたい！」という思いが、その人には与えられる“はず”だからです。

イエス様は、十字架に磔にされる直前の、何の希望も無かったはずの、強盗にも希望を与えてくださいました…。それと同様に、イエス様は、ここにおられる皆さんにも…。①自分の犯した罪を認め…。②神様にその罪の赦しを願うのなら…。同じように、この希望が与えられるのです！この強盗のように救われるのです！

<励ましの言葉>

ところで、皆さんもご存知だと思います。…2000 年前、あのイエス様の弟子たちは、イエス様が十字架にかけられた時、恐ろしくて、イエス様のことを見捨てていったのです！「自分たちも殺されてしまう！」と思ったからです。この時、弟子のシモン・ペテロが、イエス様の予言された通り、鶏が鳴く前に、3度、イエス様のことを否定した、という話は、あまりにも有名です。しかし、そんな弟子たちが、わずか数ヵ月後には、イエス様の復活を大胆に宣べ伝えていく者へと変えられたのです！一体どうして、臆病だった弟子たちが、そんなにも大きく変えられたのでしょうか？

⇒それは、イエス様の死と復活を見たからです！それ以外に、納得のいく理由がありません！弟子たちは皆、約束通り、十字架の死から復活されたイエス様を見て、確信したのです！「確かに、イエス様は神である！イエス様と同様、自分たちも死んで終わりではない！」って…。それと同じことを、片方の強盗もまた信じて、最期、召されていきました。自分も天に挙げられることを確信して…。私も、それと同じ希望を持っています！いえ、クリスチャンならば、全員に、この希望が与えられているのです！

今日の、このみことばが教えてくれているように、私たちが救われるために必要なのは、如何なる行ないでもありません。…現に、この時に救われた強盗は、あの十字架上で、イエス様を信じる信仰を持ったため、何一つ、良い行ないをすることができませんでした。でも、救われたのです！…確かに、救いは、行ないによるものではありません！それは、聖書のみことばも、はっきりと教えてくれています。

でも、聖書のみことばは、こうも教えてくれています、「本当に、神様を信じて、救われた者は神によって変えられる！」って…。確かに、今日の礼拝メッセージのタイトルにもある通り、どんな極悪人だって、自分の罪を認め、イエス様を信じたら、その者は救われます！…でも、イエス様のことを本当に信じたら、その人はもう、極悪人ではなくなります…。その人は、自分の罪を悔い改め、真の神様によって変えられたが故に、神と人を愛するような者へと変えられるのです！

今日、私たちが見た、あの救われた方の強盗は、確かに、何一つ良い行ないをすることができませんでした。…しかし、彼は、あの苦しい十字架上であっても、イエス様のことを弁護し、イエス様のことを精一杯かばおうとしておりました。…そのように、イエス様を信じたら、その瞬間から、その人は、真の神様を愛し、その神様に喜ばれたい！と願う者へと変えられるのです。神が変えてくださるのです！

最後に、もう1ヶ所だけ、聖書のみことばを紹介させていただきます。ガラテヤ 6:7-9 のみことばは、こう教えてくれています。『7 思い違ひをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。8 自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。9 善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取ることにになります。』

⇒良いですか？皆さん。私にも、あなたにも、選択が与えられています。それは、神様を信じて、神に喜ばれる選択をしていくか？それとも、自分の内にある、様々な欲望や罪を優先して、それに従って歩んでいくか？のどちらかです。…確かに、私にも、皆さんにも選択の自由があります。しかし、私たちが選んだ、その選択の…。その先にある神様からの報いを、私たちは自由に選び取ることはできません。あなたが、真の神様を信じて、永遠の命というごほうびを受け取ることになるのか？それとも、このまま、自分の罪や肉の欲望に従って生きていって、最後に、滅び…。つまり、(黙示録 20 章などが教える)永遠の苦しみを刈り取るか、その選択は、皆さんの側にあります！…どうか、そういったことを忘れないようにしてください。

願わくは、今日、このメッセージを聴いてくださっている皆さんが、神様によって大きく変えられますように。…そのために必要なのは、あなたが、イエス様のことを真唯一の神…。約束の救い主である！と信じる信仰を持ってくださることです。どうか、信仰を持つことを先延ばしにするのではなく、今日を、あなたの救いの日としてください！最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。